

令和 2 (2020) 年度実績と コロナ対応について

令和 3 年 7 月 8 日 平塚市病院運営審議会
平塚市民病院 経営企画課



最初に

令和2年度は、

新型コロナウイルス感染症の影響で感染症対応が求められ、非常に厳しい病院運営となりました。

主な感染症対応

- 専用病床の確保
- 一般病棟の入院制限
- 不急手術の延期

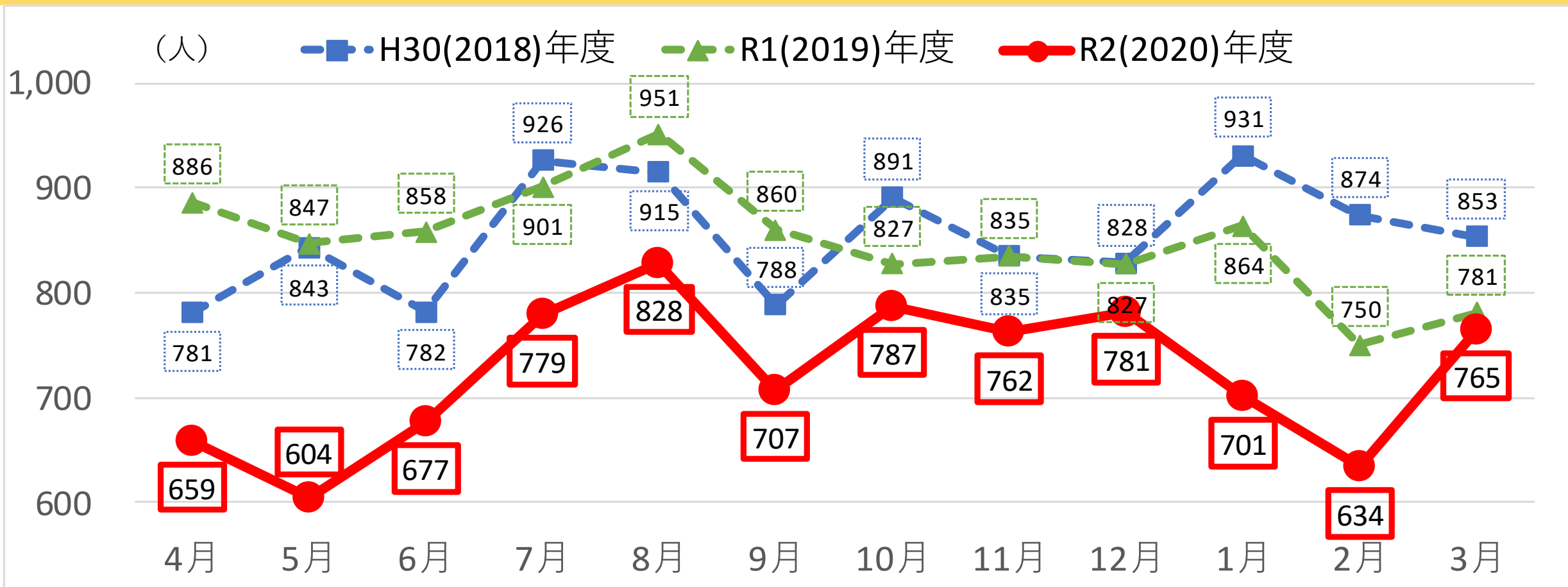
令和 2 年度実績

主な臨床指標の前年度比較

	令和元年度	令和2年度	差
新入院患者数	10,187人	8,684人	▲1,503人 (▲14.8%)
入院延患者数	127,681人	113,539人	▲14,142人 (▲11.1%)
外来延患者数	201,451人	174,636人	▲26,815人 (▲13.3%)
病床利用率 (稼働病床ベース)	87.6%	83.4%	▲4.2%
手術件数	4,007件	3,356件	▲651件 (▲16.2%)
救急搬送件数	9,120件	8,059件	▲1,061件 (▲11.6%)
救急搬送入院患者数	2,747件	2,551件	▲196件 (▲7.1%)

令和2年度実績（入院）

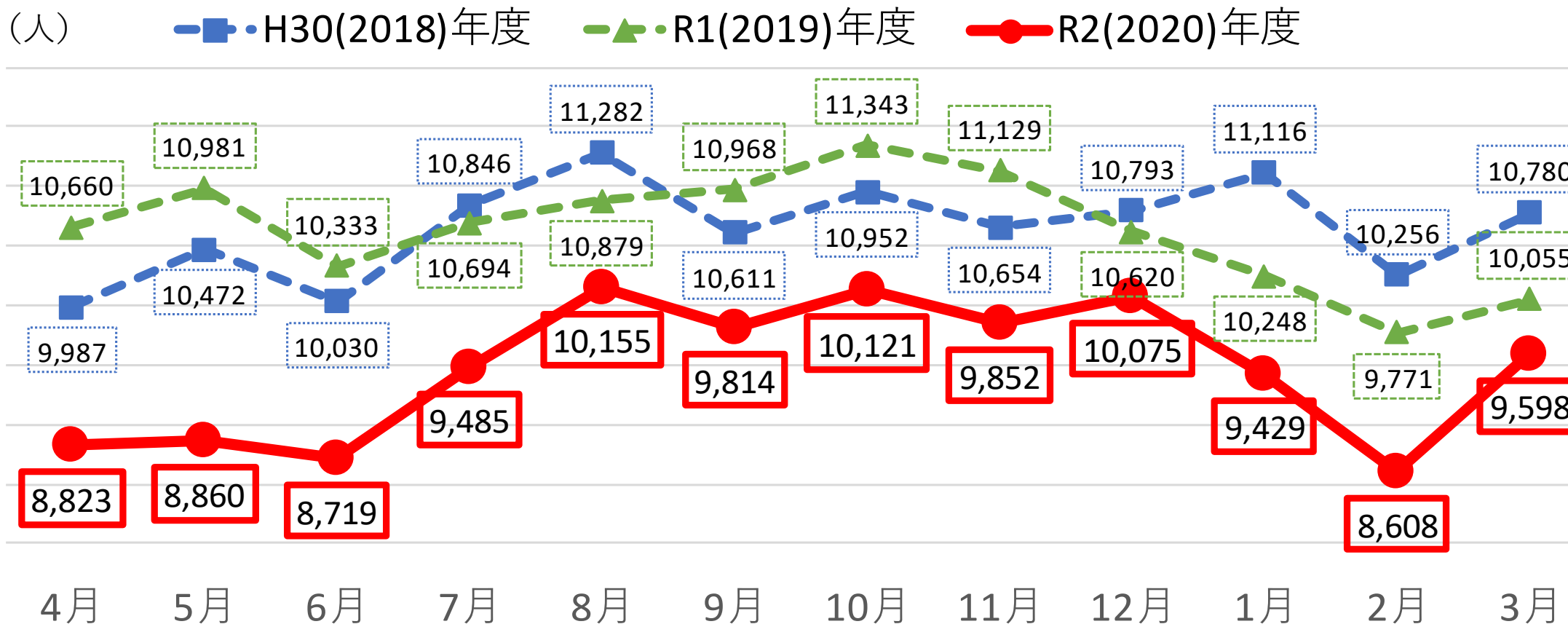
新入院患者数の推移



令和2年度は、特に4～6月と1月の患者数が減少
→不急手術延期と受診控えの影響

令和2年度実績（入院）

入院延患者数の推移



令和2年度は、特に4～6月と1、2月の患者数が減少
→不急手術延期と受診控えの影響

令和2年度実績（入院）

診療科別新入院患者数比較

R1-R2患者減少数が多い診療科

	令和元年度	令和2年度	差	備考
病院全体	10,187人	8,684人	▲1,503人 (▲14.8%)	
小児科	1,055人	565人	▲490人 (▲46.4%)	
消化器外科	848人	668人	▲180人 (▲21.2%)	
消化器内科	1,475人	1,307人	▲168人 (▲11.4%)	
泌尿器科	543人	381人	▲162人 (▲29.8%)	医師数減の影響も大きい
神経内科	228人	72人	▲156人 (▲68.4%)	医師数減の影響も大きい

泌尿器科、神経内科は、常勤医師の減少の影響も大きい。

令和2年度実績（入院）

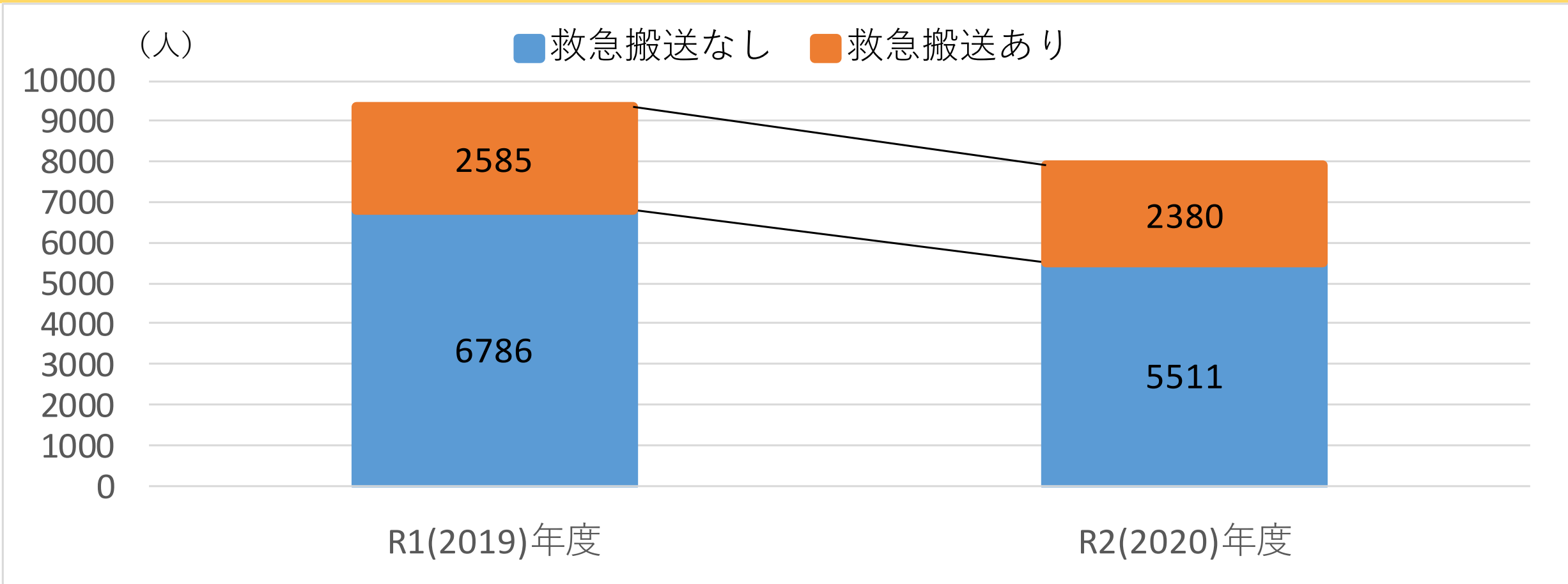
疾患別入院実患者数比較

R1-R2減少患者数が多い疾患

	令和元年度	令和2年度	差
脳梗塞	208人	72人	▲136人（▲65.4%）
急性気管支炎、急性細気管支炎、 下気道感染症	139人	11人	▲128人（▲92.1%）
ウイルス性腸炎	123人	25人	▲98人（▲79.7%）
鼠径ヘルニア	185人	108人	▲77人（▲41.6%）
てんかん	131人	55人	▲76人（▲58.0%）
胆管結石、胆管炎	206人	132人	▲74人（▲35.9%）
白内障、水晶体の疾患	240人	174人	▲66人（▲27.5%）

神経内科の常勤医師の減少、不急手術の延期などの影響が大きい。

救急搬送有無別入院実患者数比較

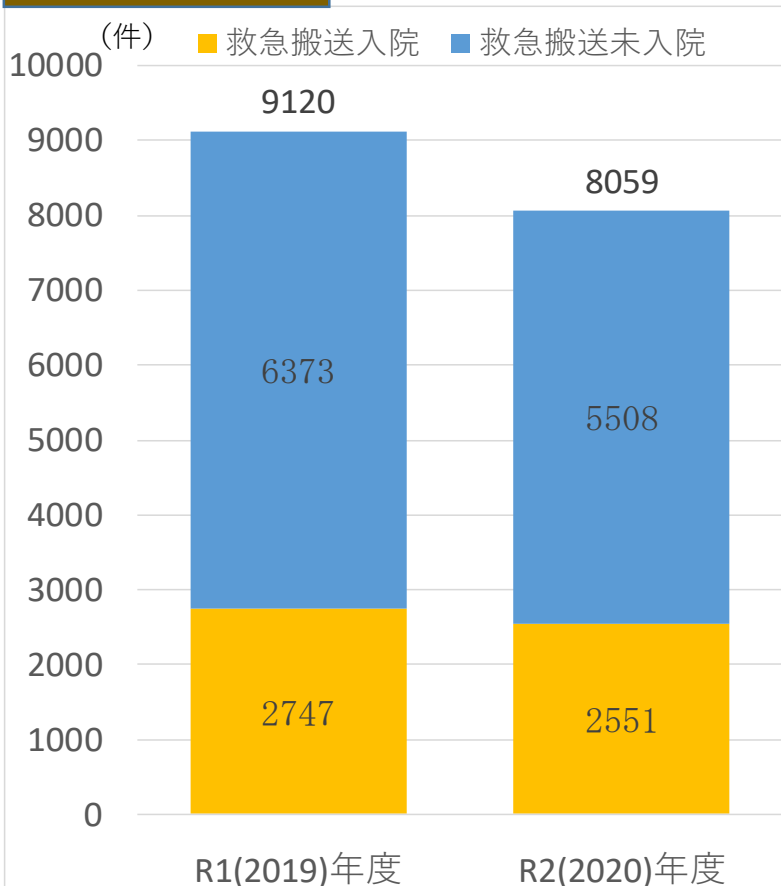


「救急搬送なし」の入院患者が減少
救急搬送患者のうち減少が最も多いのは「脳梗塞」

令和2年度実績（入院）

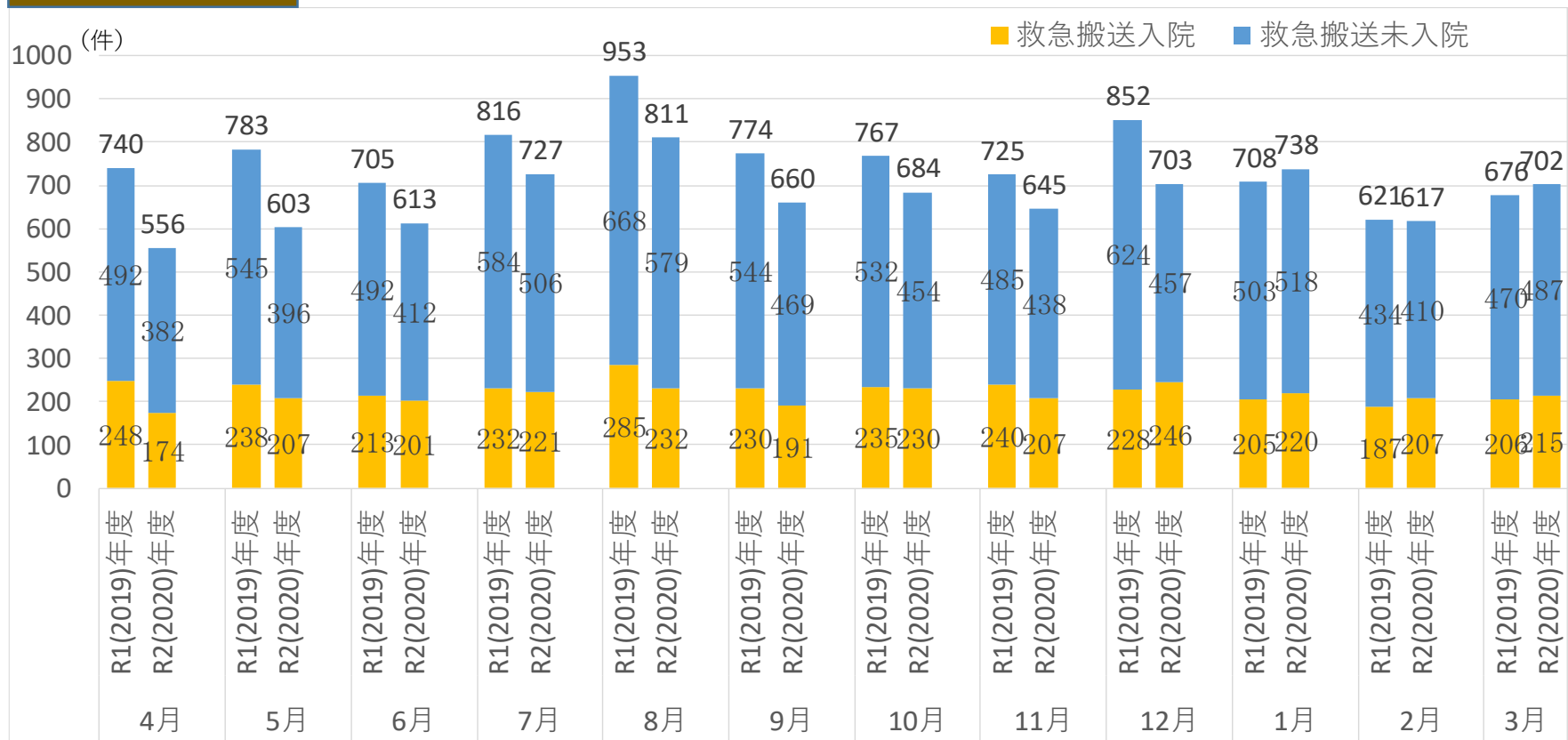
救急搬送受入の推移

年間実績



救急搬送入院率
30.1%⇒31.7%

月別実績

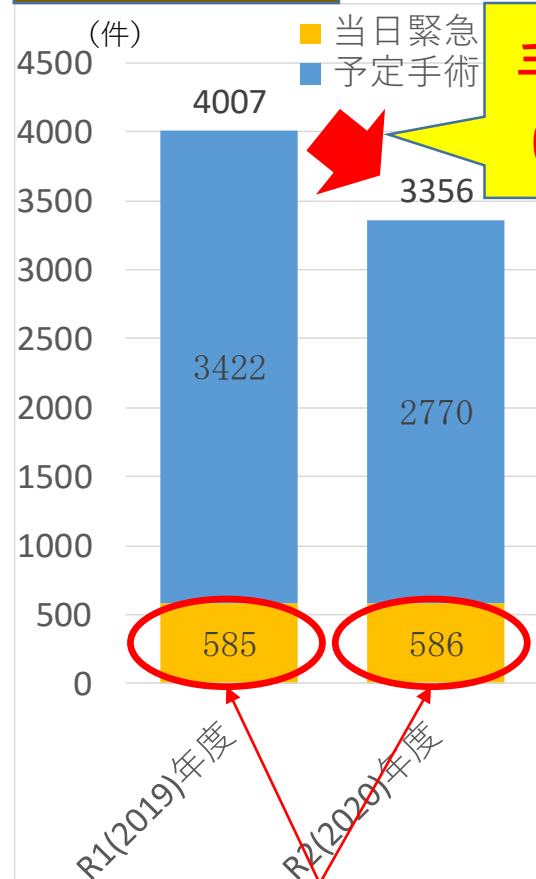


軽症の救急搬送患者が減少

令和2年度実績（入院）

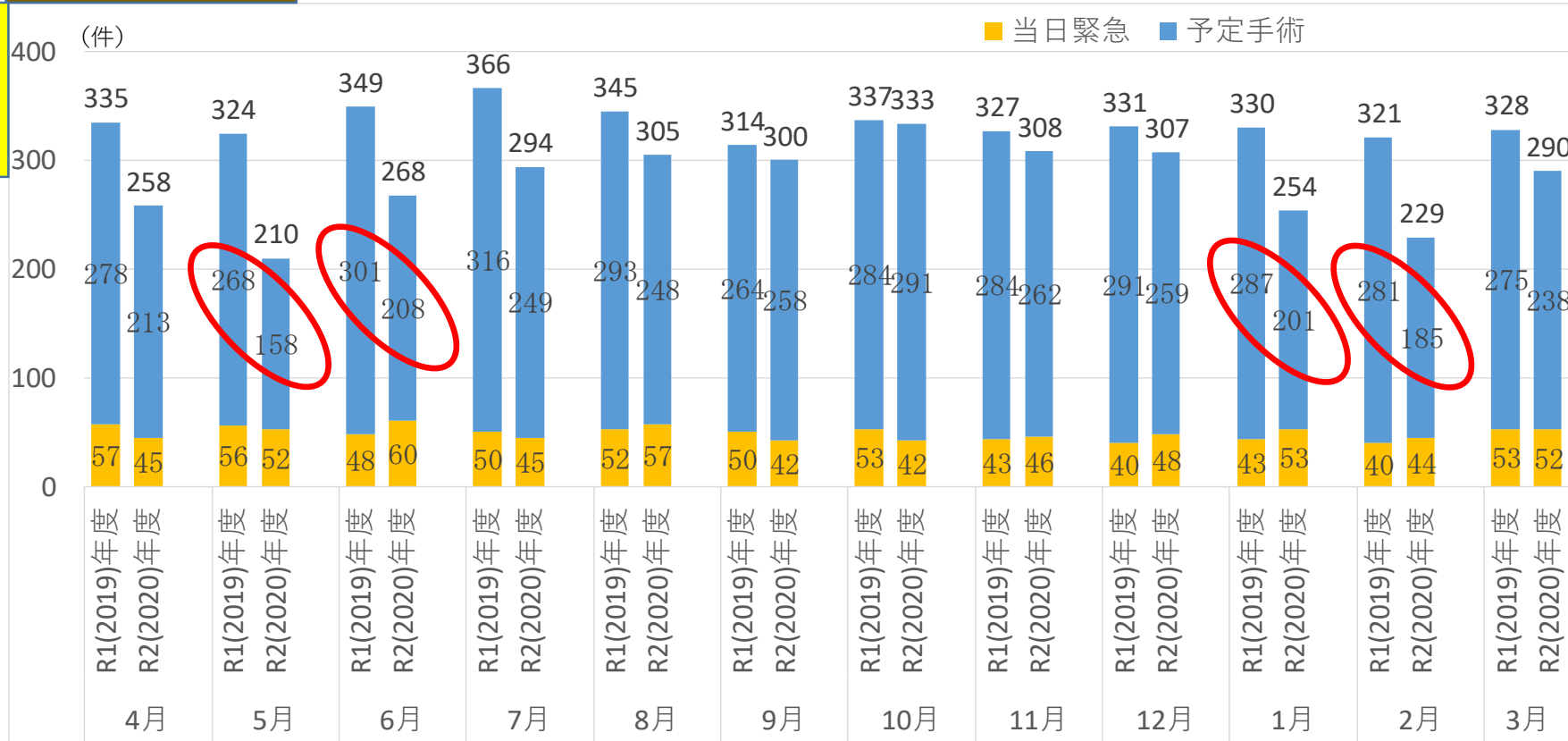
手術件数の推移

年間実績



**手術件数
651件減**

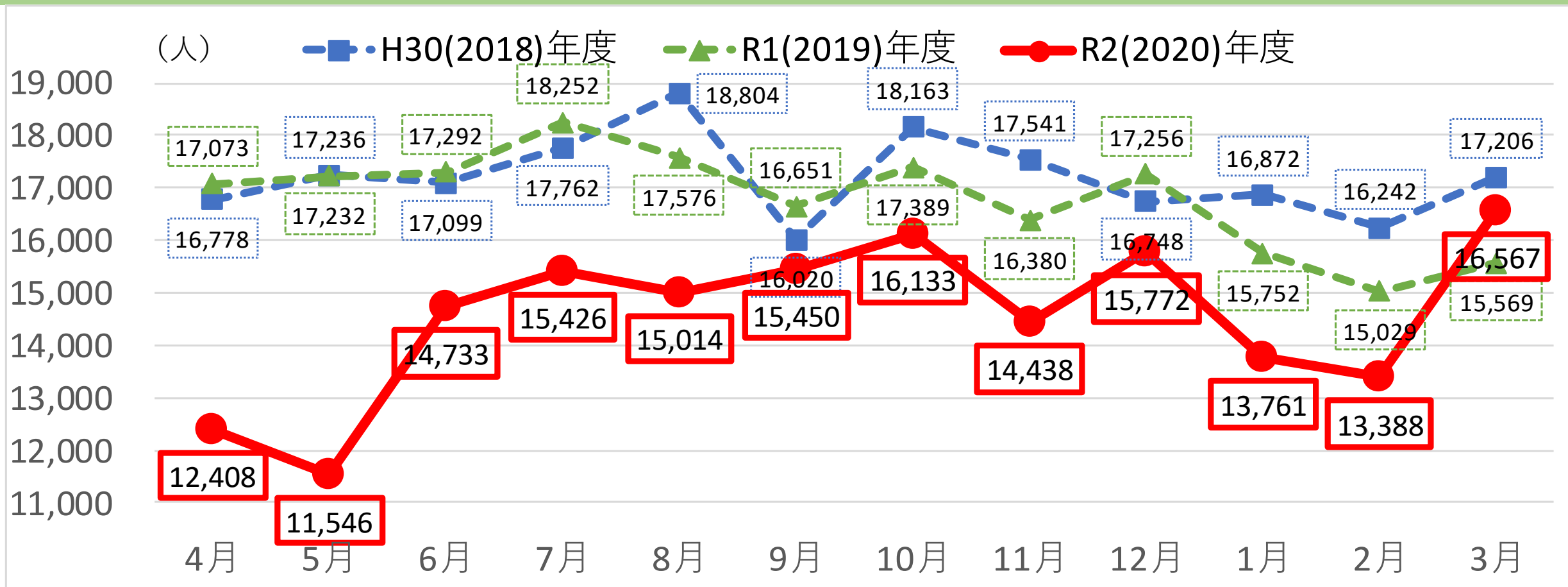
月別実績



**当日緊急手術の
件数はほぼ同じ**

**5、6月と1、2月の予定手術件数が減少
→不急手術延期の影響**

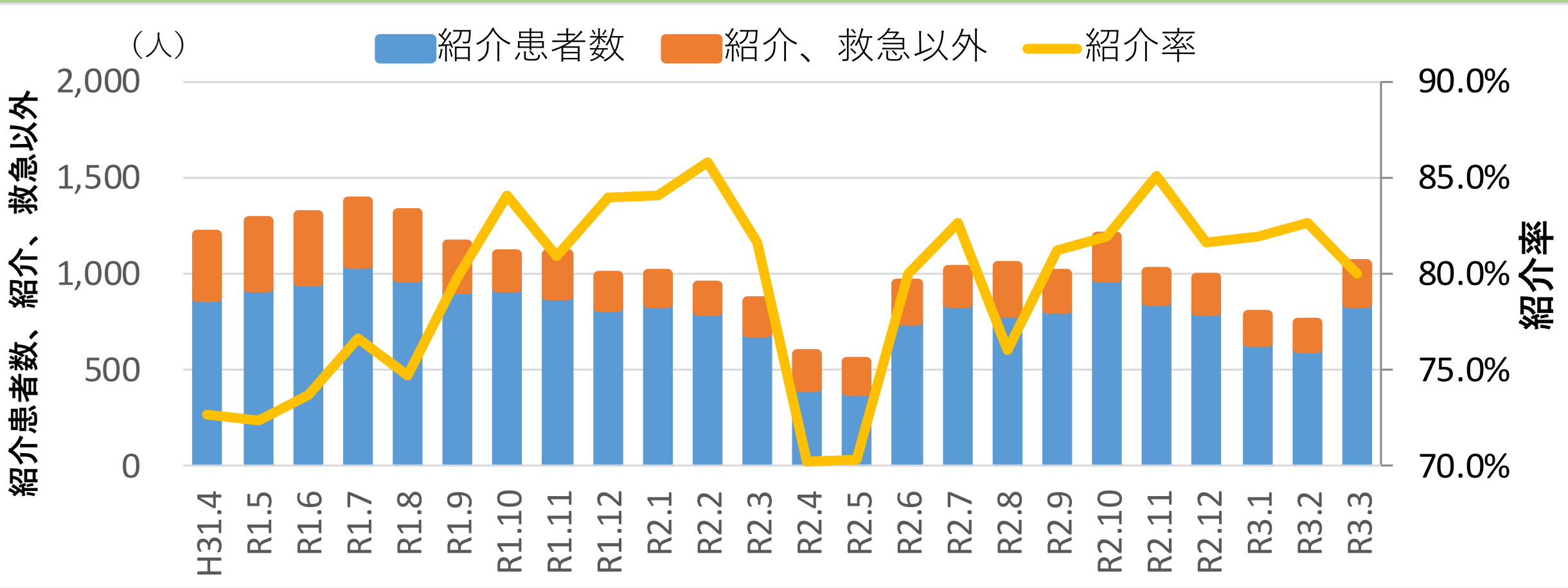
外来延患者数の推移



特に令和2年4月～5月の患者数が減少

令和2年度実績（外来）

経路別初診患者数の推移



特に令和2年4月～5月は紹介患者が減少

令和2年度実績（外来）

診療科別外来延患者数比較

R1-R2患者減少数が多い診療科

	令和元年度	令和2年度	差	備考
病院全体	201,451人	174,636人	▲26,815人 (▲13.3%)	
整形外科	16,318人	13,118人	▲3,200人 (▲19.6%)	
小児科	11,238人	8,370人	▲2,868人 (▲25.5%)	
泌尿器科	12,294人	9,832人	▲2,462人 (▲20.0%)	医師数減の影響も大きい
内科	20,373人	17,958人	▲2,415人 (▲11.9%)	
呼吸器内科	9,446人	7,096人	▲2,350人 (▲24.9%)	医師数減の影響も大きい

泌尿器科、呼吸器内科は、常勤医師の減少の影響も大きい

主な経営指標の前年度比較

	令和元年度	令和2年度	差
医業収益	119億7,600万円	112億8,600万円	▲6億9,000万円（▲5.8%）
入院収益	85億9,400万円	79億4,400万円	▲6億5,000万円（▲7.6%）
外来収益	31億1,500万円	31億800万円	▲800万円（▲0.2%）
医業費用	132億7,100万円	136億7,700万円	+4億700万円（+3.1%）
給与費	73億4,600万円	76億8,400万円	+3億3,700万円（+4.6%）
材料費	26億9,800万円	27億800万円	+1,000万円（+0.4%）
医業収支比率	90.2%	82.5%	▲7.7%
経常収支比率	99.6%	115.4%	+15.8%

収益は減少、手当等の増加で給与費が増加⇒医業収支は赤字
補助金により経常収支は黒字

まとめ

- 患者数や手術件数が減少したため、
医業収支が悪化しました。
- 新型コロナウイルス感染症対応をしつつ、
コロナ前の状況に戻す必要があります。
- 特に紹介患者や救急受診患者の増加を図り、
新入院患者を増やすとともに、病床を効率的に
稼働させることで収益の増加に努めます。

新型コロナウイルス感染症対応

- 主な対応
- 職員の意識啓発
- コロナ禍での取組
- 寄付、寄贈の状況

地域医療を守り、

経営の安定を図るには

“院内感染を起こさないこと”

が重要と考えた。

はじめに

当院は地域の中核病院であるとともに
感染症指定医療機関です。

令和2年2月6日に
最初の新型コロナウイルス感染症患者を受け入れました。

地域の医療を崩壊させないと同時に県内の医療を守る
ことに重点を置き運営してきました。

主な対応①（1～8月）

《令和2年1月24日》

コロナ患者に対する病床運用を開始

《令和2年4月6日～6月下旬》

不急手術の延期 ⇒ 医療提供体制確保

《令和2年7月1日～》

予定手術患者の術前PCR検査開始

《令和2年8月5日～》

来院者発熱チェック開始



主な対応②（9月～10月）

《令和2年9月1日～》

緊急入院患者全員にPCR検査開始

《令和2年10月13日～》

院内でのPCR検査を開始 ⇒ 検査結果が早期に判明

《令和2年10月20日～》

PCR検査4病院連携 ⇒ 院内感染発生時に4病院で連携して検査

（平塚共済病院、東海大学大磯病院、済生会湘南平塚病院、平塚市民病院）

⇒ 検査結果の早期判明による早期対応で

- 地域医療体制を維持**
- 職員の安全を確保**



主な対応③（11月～3月）

《令和2年11月16日～》

全予定入院患者のPCR検査開始

《令和3年1月7日～》

不急入院、手術の延期

職員の意識啓発

標語の作成

- ・ ひそむコロナにきをつけよう
- ・ あなたもわたしもコロナかも
- ・ 仲良しも今は離れて食べましょう 食事のあとで楽しく会話

クリーンタイム

《令和2年8月19日～》

毎日2回（11時と15時）に身の回りを清掃

検温入力

《令和2年8月19日～》

検温入力フォームを作成し、職員が毎日入力

コロナ禍でのその他の取組① (ハードウェア整備)

窓口に**ビニールシート設置**
(飛沫感染防止)



**紫外線照射
システム導入**
(除菌)



クリーンパーテーション導入
(除菌)

コロナ禍でのその他の取組②（オンライン化）

臨床研修医募集の**オンライン説明会**実施
看護職員採用の**オンライン面接**開催
(質の高い人材の確保)



令和3年度臨床研修医
マッチング率100%



院内会議の**WEB開催**
(3密回避)



新型コロナウイルス感染症対応 寄付、寄贈の状況

令和2年度

コロナ対応に関連して
延182の団体、個人から多くの寄付、寄贈をいただきました。

主な寄付、寄贈品

- ・ マスク
- ・ フェイスガード
- ・ 防護服
- ・ 感染予防器材
- ・ 寄付金 など



まとめ

今後も、感染対策を徹底し、
安心して受診できる環境を整えることで
経営の安定化を目指し、
市民の信頼確保に努めます。